

村山貯水池  
2025年7月撮影

# 東京水紀行

東京水  
長年、撮り続けてきた  
私の記録である

# 凍

小河内ダム  
2026年2月撮影

呼吸する息が凍りそうだ  
全部が凍り付いている  
時間も止まっている

# 嶺

笠取山 分水嶺  
2023年5月撮影

初めて分水嶺という場所に立った  
東京水になるのは  
左方に降る雨だけだ

# 滴

いごいの路  
2022年10月撮影

6時間掛けてこの路を歩いた  
奥多摩湖右岸、水源地に降った雨  
一滴が集まり、湖に流れ込む

笠取山  
2023年7月撮影

精

東京？  
まるでジブリのような世界が広がる  
ここが東京水が生まれる場所だ

# 雲

奥多摩湖  
2019年4月撮影

春は朝と昼の気温差が大きい  
奥多摩湖には不思議な雲が流れていく  
まるで生きているように

# 桜

ふれあいの路  
2021年4月撮影

ダム左岸のふれあいの路には  
多くの桜が咲く  
少し遅い、春が来た

# 溪

鳩ノ巣溪谷  
2018年12月撮影

シャッター開放10秒  
肉眼では見えない水流が  
溪谷にはある



いこいの路



御岳溪谷



小河内ダム

## 東京水紀行

東京水の撮影を始めたのは2008年。

東京都水道局のカレンダー写真が、応募作品から審査で選ばれると知ったことがきっかけだった。カメラを始めたのは50歳。3年目で、ある程度は撮れるようになったと思っていたが、今あらためて当時の作品を見ると、反省点はいくつもあ

る。  
気軽な気持ちで応募した最初の年は、佳作にも届かなかった。翌年からは、多摩川上流を中心に何度も足を運んだ。事前に調べ、撮影地を決めてから向かうようになった。その過程で、それまで関心のなかった多摩川や奥多摩の姿を知った。以来、月に二度は奥多摩方面へ行き、年に一度は源流の笠取山にも登っている。

多くの作品が生まれた。どれも私にとって大切な記録である。写真や映像は、その時の記憶を確かに呼び戻してくれる。今ではコンクールのためではない。

東京水が生まれるこの場所を撮ること自体が、60歳を越えた私の生活の一部になっている。

令和8年2月 中川圭二

